



里親譲渡に欠かせない大事なお仕事 一時預かりボランティアを あなたも始めてみませんか？

宇都 ひさえ



皆さんこんにちは。
犬の一時預かりボランティアをしている宇都です。
犬と暮らし始めると、当然のことですが「自分のワンコは可愛い♪」と思いますよね。お散歩などでお友達ができて、他の犬達とも触れ合うようになると、次第に「ワンコって皆可愛い♪」という気持ちになってきませんか？

私は、空前のペットブームと言われている今の世の中で、飼い犬が捨てられたり飼養放棄されるケースが多いという事実を知って驚きました。

そこで、私にも何か不幸な犬達のために出来ることはないかな〜と漠然と考えてたわけですが、そんなある日のこと、うちの愛犬と同じミニチュアダックスが保護されたという話を愛護協会から聞き、里親さんが見つかるまでの間の一時預かりを頼まれたのが、このボランティアを始めるきっかけとなりました。

その犬は、迷子として芦屋警察署に届けられたのですが、2週間が経過してもどこにも飼い主からの届け出が無いために捨て犬と判断。協会が警察から引き取って様子を見た後、我が家でこの仔を預かってお世話をしながら、里親さんを探すことになりました。これが我が家での預かり犬第1号。その後、現在までに3頭の犬のお世話をして新しい家庭に送り出しています。

さて、居候犬を迎えるにあたり、まず最初に気になるのは、先住犬との相性だと思えます。幸いにも、うちの犬は誰でもOK!で友好的に歓迎してくれるタイプなので、この点は簡単にクリア出来ました。お互いあまり干渉せずといった静かな関係を作っているようです。



次に必要になるのはトイレのしつけですが、みんななんとか3、4日で覚えてくれています。こうなるとあとはわりと楽ですね。里親さんがみつけるまで普通に一緒に暮らせばいいんですから。

新入りの犬はいつも先住犬を見ている。この家ではこういう遊びはOK、これはダメ、トイレはどこ?等々先住犬を見て全て覚えていきました。人が教えなくても、そんな調子でどんどん新しい環境に馴染んでいきます。犬って本当に賢いなーと感じさせられます。

愛護協会では、ポスターやホームページで里親募集の掲示を開始し、ベストなお家を探してくれていますが、一方日がたつにつれ我が家に慣れてきた様子を見ると、だんだん

預かり中の居候犬を可愛く思う気持ち、また新しい家に譲渡して最初からやり直しをさせるのは可哀想という気持ちが湧き起こり、日に日にその気持ちは強くなってきます。いっそウチの家族にしてしまおうかと考えたこともありました。

でも、うちで2頭飼っているよりも、この仔1頭だけに愛情を注ぎで家族全員でとても温かく迎えてくれる広いお庭のある家があったら、今よりももっと幸せになれる機会を私達が奪うことは出来ないよね と犬の顔を見ながら新しい里親さんが見つかった日に備えて気持ちの準備をしていました。それでもお別れの日の淋しさは大変なもの。

けれども、別れということは本当にいい里親さんが見つかったということなのです。「間違いなく幸せにしてくれる家庭が見つかるまでは渡しません!」と脅迫?いえ強いお願いを愛護協会に伝えていたのですから。

後日、新しい家族ととても幸せそうに暮らしている犬の姿を見た時、里親さんへの感謝の気持ちと喜びで、また涙涙でした。

私はこのボランティアをするようになって、世の中の問題が一番弱いところに出ていることに気づかされました。経済状況が悪化すると、今まで飼っていた犬が飼えなくなる人達がでてくるのです。子供を捨てようとする人はめったにいませんが、犬ならいいだろうと軽く考える人というのがあるらしいのです。離婚したり生活苦などで追い詰められた時、人はもの言わぬ動物たちを犠牲にしています。

一方では、人が起こした問題は人が解決しなくては、と動物愛護活動をされている方達が奮闘しています。一緒にその活動(警察からの引き取り、里親探しとお見合い、しつけや飼養環境のアドバイスなど)の全てをするのは無理だとしても、犬を飼っている人、飼った経験のある人ならば、その活動のお手伝いをする事は出来るのではないでしょうか。



一時預かりボランティアの仕事は、やってみるとそれほど難しいことはありません。普通の犬の飼い主の私がしていることは、皆さんにも出来る仕事です。

人数が集まれば、助け合いのネットワークもでき一時預かりならではの相談や話し合いもできるでしょう。

皆さんがこのボランティアに興味を持ち、私達の仲間となることを楽しみにしています。